人間は水です。

ご家庭で湧き水を味わえるパイウォーター

VRπWATER（パイウォーター）

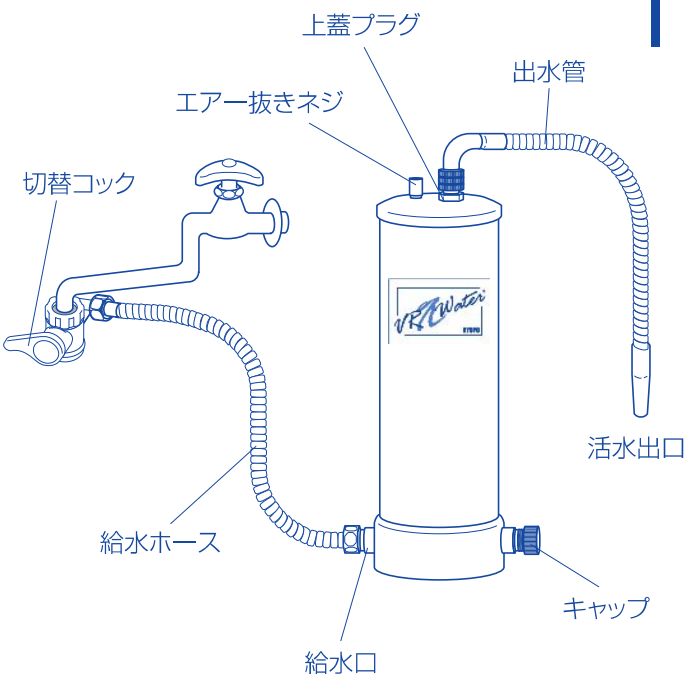
Vπ-350型
Vπ-550型

■取扱説明書■

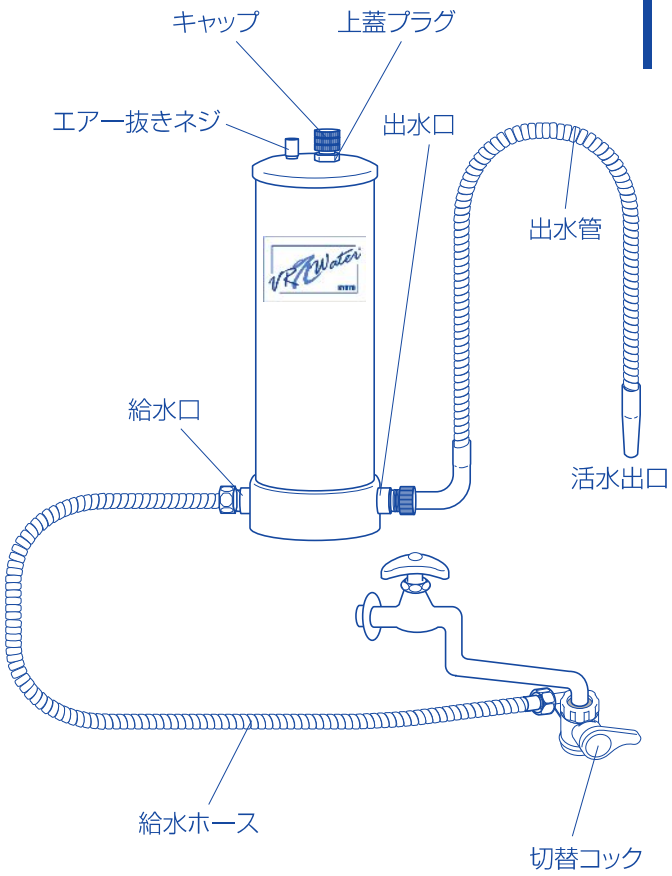
発売元 株式会社ジャパン京洋
香川県高松市新田町587-4 TEL:087-843-5558

製造元 京洋興業株式会社
東京都目黒区下目黒2-16-21 TEL:03-3491-6600

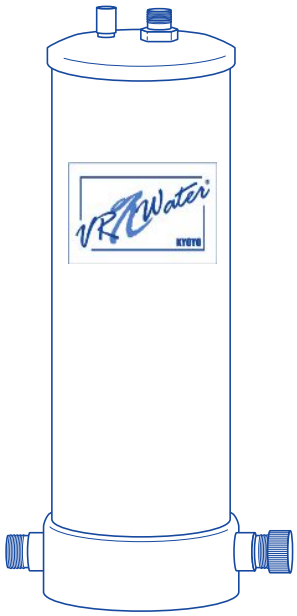
VRπWATER（バイウォーター）通常取付完了図



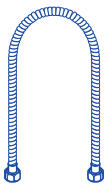
VRπWATER（バイウォーター）出窓取付完了図



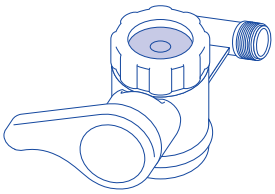
部　品



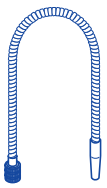
本体　1



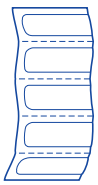
給水ホース　1



切替コック　1

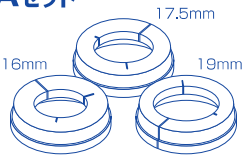


出水管　1



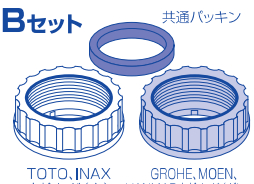
残留塩素測定用 DPD試薬　5

Aセット



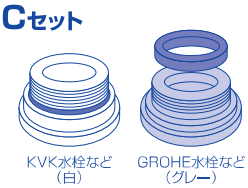
固定用リング　3

Bセット



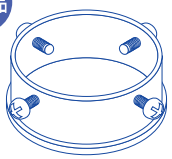
泡沫用リング　2

Cセット



泡沫用リング　2

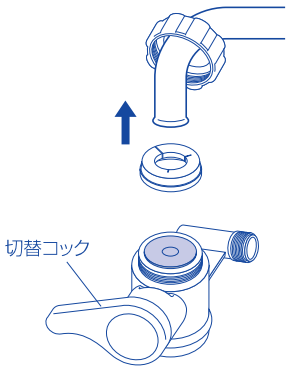
別売品



ビス止め用リング

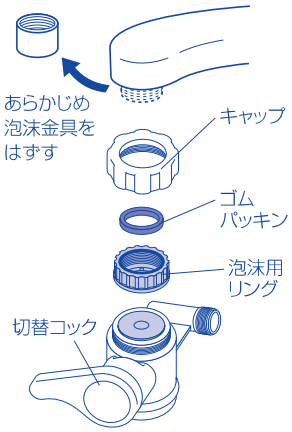
取り付け例

●先のふくらんだ丸形パイプ（**Aセット**）



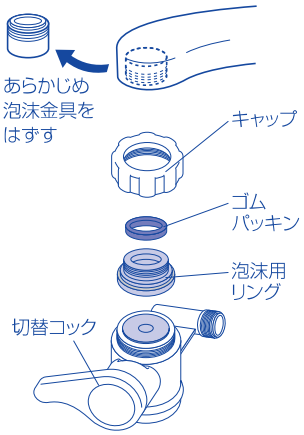
取付部品セット台紙でパイプの直径を測り、直径にあった固定用リングを取り付ける。

●泡沫水栓･外ネジ用（**Bセット**）



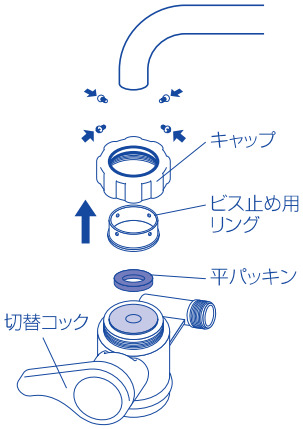
附属の泡沫用リングの中にゴムパッキンをはめ、キャップを上にして、蛇口に泡沫用リングを締め付ける。

●泡沫水栓･内ネジ用（**Cセット**）



附属の泡沫用リングの上にゴムパッキンをはめ、回転用リングを上にして、蛇口に泡沫用リングを締め付ける。

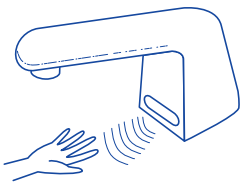
●その他の蛇口（**ビス止め用リング**（別売））



キャップにビス止め用リングを入れ、ネジ4本を仮止めし、キャップの中に平パッキンを挿入する。

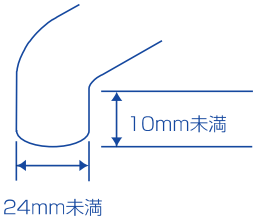
〈取り付け不可能な蛇口〉

●センサー付

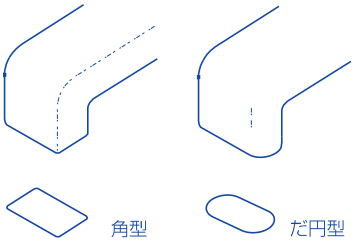


●シャワーノズル付

●先端が10mm未満 直径が24mm未満



●特殊な蛇口

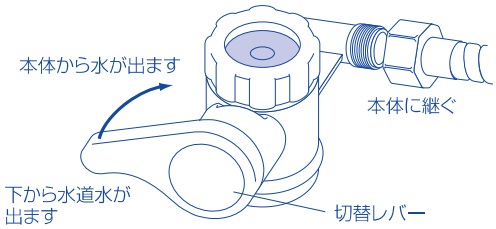


取付方法（取付完了図参照）

〈取り付け手順〉

（1）蛇口先端に切替コックを取り付けて下さい。
※［取り付け例］参照

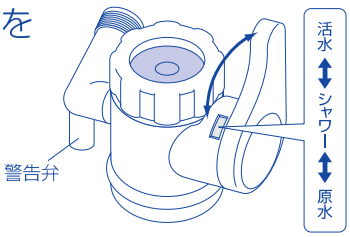
（2）給水ホースを右図の様に取り付け、片方を本体の給水口に取り付け、ネジをスパナで締めて下さい。
※ネジの締め過ぎにご注意下さい。



（3）取付が終わりましたら、活水器本体に出水管を取り付けて通水しながらエアー抜きネジをゆるめて下さい。エアー抜きを2～3分間行ってネジを締めて下さい。5～10分間程水を出した後ご使用下さい。

（4）各締付部に水漏れがないかよく確認して下さい。

（5）一定量以上の圧力がかかると、水は警告弁から排出されます。その状態では絶対にご使用にならないで下さい。必ず水圧を弱めてからご使用下さい。



ご使用になる前に

●使い始めに活性炭の黒い微粉がろ過水に若干混入することがありますので、5分程通水して下さい。（微粉末がなくなるまで通水して下さい。）
●40℃以上の温水のろ過には使用しないで下さい。

水切れが悪い場合は

①エアー抜きネジをゆるめて水を通水し、ネジの穴より水を少しあふれ出して下さい。
②①でもよくならない場合は通水させながら本体を逆さまにして、ゆっくりと5～10回程振って20～30秒間通水して下さい。

※尚、水栓を閉めてから活水出口より水がポタポタと垂れる場合がありますが、本体の欠陥ではありません。（ウォーターハンマー現象のため）

水の検査

〈残留塩素測定用 DPD試薬〉

DPD試薬（分包）は、DPD法による遊離残留塩素測定用試薬です。遊離塩素を含む水に、本試薬を加えるとその濃度に応じて淡赤紫色～赤紫色を呈します。
ご使用に際しては、以下の事項をよくお読みの上、正しくお使い下さい。

使用方法

コップに浄水後の水を取り、DPD試薬1包を加え溶解させて下さい。
（1包あたり、DPD試薬約100mgを含みます。）

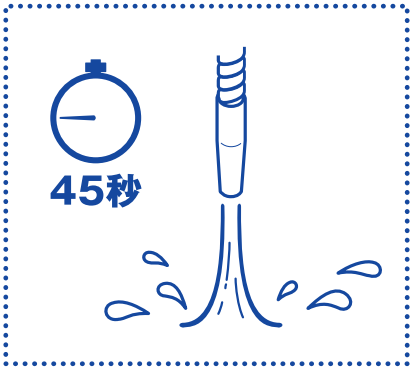
※この分包はどこからでも開封できますが、開けにくい場合はハサミを使用して下さい。また、試薬を取り出した後若干試薬がフィルムに残りますが、十分量の試薬が充填されていますので、測定に影響はありません。

使用上の注意

本試薬は、定められた用法で使用する限りほとんど危険性はありませんが、劇薬の為目や口に薬品が入らないように注意して下さい。
（1）直射日光を避け、なるべく湿気の少ない涼しい場所に保管して下さい。
（2）品質保持のため、袋は使用直前に開封して下さい。
（3）試薬が変色したものはご使用にならないで下さい。（保管状態により、試薬が白色から変色してしまうことがあります。）
（4）検査後のコップの水はすみやかに捨てて下さい。
（5）試薬には直接手を触れないで下さい。
（6）試薬が手や皮膚についた場合は、よく洗い流して下さい。
（7）試薬が誤って目に入ってしまった場合は、多量の水で洗い流して下さい。
（8）本試薬は食べられません。万一飲み込んでしまった場合には、胃から吐かせ、医師の手当を受けて下さい。
（9）使用後は手をよく洗って下さい。
（10）乳幼児の手の届かない場所に保管して下さい。

ご使用上の注意

1. 活水出口に水栓部品等を取り付けると本体に負担がかかりますので、絶対に使用しないで下さい。
2. 4Kg/㎠以上の水圧での使用は絶対に避けて下さい。
3. 寒冷地でのご使用はメーカー又は販売店にご相談下さい。
4. 井戸水等に使用される場合は、必ずご相談下さい。
5. 製氷機及び流し台の下に直付けは絶対にしないで下さい。（直付けの場合は、アンダーシンク型を使用して下さい。）
6. 40度以上の温水を通さないようにして下さい。お湯を通した時、においの成分が浄水に混ざる場合がありますのでご注意願います。
7. 朝、最初にご使用される時は、必ず45秒間ほど通水してからご使用下さい。また48時間以上ご使用にならなかった場合は、ご使用前に必ず5分以上は通水するようにして下さい。
8. 金魚や熱帯魚には注意して使用して下さい。
   ・水質の違いにより適さない観賞魚がいるため。
   ・カートリッジの寿命でカルキ（残留塩素）の除去が不十分になると、魚が死ぬ恐れがあるため。
9. 水抜きを以下の場合には、必ず行って下さい。
   ・長時間使用しない場合のご使用後。
   ・凍りつく恐れのある場合のご使用後。
10. 断水があった場合や、近くで水道工事があった場合、鉄クズや赤水が活水器の中に入ることがあるので、切替コックを「原水」の状態でしばらく流してからご使用下さい。
11. 吐出量が急に少なくなったり水切れが悪い場合は、カートリッジ内に空気が入っている可能性が ありますので、エア抜きを行って下さい。
    ※［水切れが悪い場合は］を参照。
12. 長時間の汲み置きはしないで下さい。
13. カートリッジの抜き差しは、雑菌付着防止や水漏れ防止のため、1度通水したら交換時まで行わないで下さい。
14. 活水に異常が（味・におい等）ありましたら、交換時期を確認して下さい。
15. 切替コックの警告弁から水が出る場合は、水道水圧が通常より高い状態のため、必ず警告弁から水が出なくなるまで蛇口を絞って下さい。
16. 本体は、絶対にシンナーやベンジンなどで拭かないで下さい。
17. 内部を開けて分解等しないで下さい。水漏れ等の故障の原因となります。
18. キッチンまわりは雑菌が繁殖しやすいので、出水管を取り外し、定期的にハブラシを使うなどして常に清潔に保って下さい。尚、洗剤などは絶対に使用しないで下さい。
19. ネジの締め過ぎは、荷台が破損する恐れがありますのでご注意下さい。
20. 通水量の目安は、Vπ-350型約30,000L、Vπ-550型約50,000Lです。（一般家庭の場合、キッチンでの水の使用量は1日約40Lです。）



※交換用カートリッジ価格はVπ-350型79,000円、Vπ-550型125,000円です。（消費税別途）

自社基準による本製品の除去能力

弊社では本製品を実際の使用環境に設置し、独自の除去能力試験を行っています。下記の物質は、水の安全性を判断する際に特に重要とされるものです。

〈主な物質の特性〉

遊離残留塩素
次亜塩素酸と次亜塩素酸イオンのことで、水道法では給水栓における保持量が0.1ppm以上と定められている。

ＣＡＴ
トリアジン系の除草剤で雑草の発生を防ぐために散布されるほか、ゴルフ場の芝生などにも使用される。

溶解性鉛
水道管から溶出した鉛のことで、神経障害、貧血、頭痛、食欲不振、鉛疝痛などの中毒症状を呈する。

総トリハロメタン
クロロホルム、ブロモジクロロメタン、ジブロモクロロメタン、ブロモホルムの各濃度の合計のことで、なかでもクロロホルムは発ガン物質であることが明らかになっている。

ダイオキシン
一般にポリクロロジベンゾパラダイオキシン（PCDD）、その一種であるテトラクロロジベンゾパラダイオキシン（2、3、7、8-TCDD）のことを指し、特に後者は急性毒性、慢性毒性、変異原性、発ガン性、催奇形性が非常に強い。

Vπ-350

除去対象物質	処理能力	除去能力
遊離残留塩素	30,000L	90%以上
CAT（農薬）	30,000L	90%以上
カビ臭	30,000L	90%以上
溶解性鉛	30,000L	90%以上
濁り	30,000L	90%以上
総トリハロメタン	30,000L	90%以上
ダイオキシン（2、3、7、8-TCDD）	30,000L	90%以上

※データ提供:アクアR&D研究所

Vπ-550

除去対象物質	処理能力	除去能力
遊離残留塩素	50,000L	90%以上
CAT（農薬）	50,000L	90%以上
カビ臭	50,000L	90%以上
溶解性鉛	50,000L	90%以上
濁り	50,000L	90%以上
総トリハロメタン	50,000L	90%以上
ダイオキシン（2、3、7、8-TCDD）	50,000L	90%以上

※データ提供:アクアR&D研究所